

その先にわが家がある歓び。

静謐な街並みに溶け込む端正な佇まい。

豊かなコミュニティを感じさせる開放的な佇まい。

マンションにはそれぞれに「纏う雰囲気」というものがあります。

その表情や印象に大きな影響を与えているのが

内と外を区切り、時にはつなげるゲートであり、

住まう人や訪れる人を心地よく誘うアプローチです。

その先にわが家があることに誇りを、歓びを感じていただきたい。

そんな想いを形にするための工夫やこだわりについて、

デザイン性、敷地の活かし方、動線づくりなど

さまざまな角度から考察していきます。

格子扉と表情豊かな植栽とのコントラストが美しいエントランスゲート。その先に続くアプローチが、住まう人を優しく誘います。
(GM大手門ザ・レジデンス／福岡県)



▲(上) エントランスに向かって緩やかにカーブさせることで、奥行きを感じるアプローチに仕上げています。(GM山芦屋／兵庫県)

▲(中) 近隣の方々も通り抜けることができるアプローチ。豊かな緑が都心の暮らしに潤いをもたらします。(GM品川シーサイドの杜／東京都)

▲(下) アプローチの上にあしらったルーフが、内と外をゆるやかに区切る結界の役割を果たしています。(GM西堀通タワー／愛知県)

◆開放的なスペースに石のベンチを設けて。さりげない配慮が豊かなコミュニティづくりにつながります。(GM浄水ガーデンシティフォレストゲート／福岡県)

「GM大手門ザ・レジデンスがまさにそうですね。風格のある門構えがあつて、格子扉の向こうに緑豊かなアプローチと建物が見え隠れする。奥行きが長く、先に行くほど広がっていく敷地の特性を活かしています」(酒井)

「敷地の特性と合わせて、そこがどのような土地なのか、という視点も大切ですね。たとえば、広大な敷地のGM浄水ガーデンシティは、もともと公共性の高い場所でした。長年にわたりコミュニティが育まれてきた系譜があるので、引き続き近隣の方々の集いの場

となるように外構をオープンな設計とし、その上でセキュリティにもしっかり配慮しています」(城山)

敷地の規模や形状を活かした最適な動線づくり

お客様はどの程度ゲートやアプローチを意識されるものなのでしょうか。

「物件選びの際に着目されることはそう多くありません。入居後、実際に暮らしはじめて

徐々にメリットや魅力を実感されるのだと思います」(高戸)

「確かにそうですね。仕事帰りに長いアプローチを歩いていると自然にオン・オフの気持ちの切り替えができた、豊かな植栽に四季の移ろいや癒しを感じたり。日々の暮らしの中でしみじみと「ここを選んで良かった」と思っていただけなら、GMとしても本望です」(城山)

「そんな満足感を入居前に味わっていただけ

暮らしはじめて徐々に魅力を実感されるのがゲートやアプローチだと思います。(高戸)



ゲートはそのマンションの個性を最初に見せる非常に重要な存在です。(酒井)



個性が最初に出る場所セキュリティ強化の役割も

今回テーマとして取り上げるゲートとアプローチについて、皆さんはどのように捉えられているでしょうか。

「どちらもマンションの共用部ですが、お住まいの方だけではなく多くの人が目にするという点では、他とは少し異なる配慮が必要だと考えています」(城山)

「まずゲートに関して言うと、そのマンションの個性を最初に見せるという意味で非常に重要な存在です。グレード感や住戸までのデザインの流れなどを意識しながら設計しています」(酒井)

「ゲートの仕上がりはマンション全体の雰囲気に影響しますよね。だからこそ必ず完成予想図を作成して検討を重ねますし、住まい手の暮らしにとってどういうものがふさわしいのか、敷地計画の段階で意味合いもしっかり考えます」(城山)

「マンションが完成すると、ゲートに続くアプローチも含めてひとつの景観となり、そのマンションの顔となります。ランドメゾン(以下、GM)は自然石の石積みや緑豊かな植栽が特徴的なので、パッと見ただけでGMだとわかる、とお客様からよく言われます」(高戸)

「ゲートやアプローチを含めた外構全体の質が高いほど、そこを通じて帰る時に、この先にわが家があるんだ、と満たされた気持ちにな

る。お住まいの方にとっては、そんな存在なんだと思います」(森)

「また、近隣の方が素敵なマンションだなと感じてくざれば、それが誇りにもつながるのではないのでしょうか」(高戸)

最近の傾向としてはどのようなことが挙げられますか。

「年々注目度が高まっているのは、セキュリティやプライバシーの強化です」(酒井)

「しっかりとしたゲートで結界をつくって、その奥に続くアプローチを長くしたり、クランクさせたり。外から中を見通せないようにするにはどうすればいいのかを考えながら設計することが多くなっています」(城山)



▲(上) ゲートにボリュームを持たせることで、複数の居住棟が立ち並ぶ広大な景観が引き締まった印象に。(フォレストプレイス香椎照葉ガザテラス／福岡県)

▲(下) シンメトリックな門柱と奥行き感のあるアプローチ。端正な佇まいが道ゆく人の目を引きまします。(GM上町一丁目タワー／大阪府)

▼既存の長屋門や樹木を活かし、長年この土地で親しまれてきた景観を継承しています。(GM白壁櫻明荘／愛知県)

talking member



●高戸 美里 (左から2番目)
福岡マンション事業部 分譲課
宅地建物取引士
インテリアコーディネーター
お客様と接する仕事なので美容や健康づくりなどしっかりメンテナンスをし、自分磨きに力を入れています。

●城山 千裕 (右端)
福岡マンション事業部 設計課
二級建築士
プライベートでは友人とフットサルをしたり温泉に行ったり。ダイエットに向けてランニングも始めました。

●酒井 公嗣 (左端)
福岡マンション事業部 設計課
休日は3歳の息子と各地のショッピングモールへ。大きくなったからキャッチボールをしたいですね。

●森 智子 (右から2番目)
福岡マンション事業部 分譲課
宅地建物取引士
インテリアコーディネーター
野球が好きで長年の西武ファン。ホームの球場まで足を運んで、ユニフォーム姿で応援しています。



森の中を散策しているようなアプローチ。存在感のある2つの自然石が結界の役割を果たしています。(GM池下ザ・タワー／愛知県)



るタイミングとしては、お渡し前の内覧会があります(森)

「敷地内をご案内していると、ゲートを通じてお部屋に着くまでの間にお客様の気持ちやどんな高揚していく様子が隣にいる私にも伝わってきます。完成予想図をご覧になってアプローチがちょっと長いかな?という印象を持たれていたとしても、実際に歩かれるとこんなところまで緑があつて素敵ですね、とおっしゃったり。そんな時は、喜んでいただけたご提案ができて本当に良かった、と思います(高戸)

「気持ちが高揚するよう動線を工夫されているんですね。」

「次の空間に行ってみようと思えるような楽しさをつくるよう心がけています。奥に進んでいくほどワクワク感が増幅するような工夫はアプローチ動線を設計する上では大事なポイントです(城山)

「お住まいの方はもちろん、遊びに来られた

◆底の大きい車寄せとエントランスホールの灯りが、ホテルライクなアプローチを演出しています。(GM伊勢山／神奈川県)

◆タイルの凹凸感を活かしたライティングが、邸宅の佇まいにふさわしい上質な陰影を描き出しています。(GM神戸北野坂／兵庫県)

◆リズムカルに配置した穏やかな灯りが、住まう人や訪れる人をその先へと導きます。(GM夙川松園町ザ・ハウス／兵庫県)



ゲストの方々への期待感も高まりますよね(高戸)

「動線にはいろんなパターンがありますが、GM大手門ザ・レジデンスのように敷地の両側が道路に面しているとアクセス動線が取りやすく、人と車の動線を明確に分けることが



できるので、より安全で安心ですね(森)

「アプローチ動線に関しては、いかにスムーズに誘導できるかがポイントです。GM大濠公園ザ・タワーでは数回クランクが生じるのですが、所要所所にアイストップを設けることで、どう進んで行くのかをわかりやすく示しています。それが植栽なのか壁なのか、壁や床に当てた照明なのか、どういった仕掛けにするかは物件ごとに工夫しています(酒井)

「人の動線も車の動線も、機能性や安全性に配慮した上で景観としての美しさ、豊かさをいかに描き出すかが設計の要であり、GMのこだわりでもあります(城山)

迎え入れる気持ち
照明の演出でさりげなく表現

夜間は照明が果たす役割も大きいのではないのでしょうか。

「帰宅される際の動線の中で、どこを一番見て

じますか。

「GMをご存知の方の場合は、門構えが重厚で植栽も豊かで、という元々の期待値があるので、それを超えるものが求められていると思います(森)

「今検討しているGMは他のGMと比べてどうなのか、情報収集をしっかりされています



お客様が求めておられるのは背景にある「ストーリー」だと感じます。(森)

思わず語りたくなるような付加価値の高い提案を

お客様はどんなことに期待されていると感じ

建物入口に凹凸感のあるタイルを採用し、そこにスポットライトを当てることで、美しい陰影を魅せる壁面を計画しました(城山)

マンションの表札「館銘板」

ゲートやエントランスに掲げられた館銘板もまた、マンションの顔のひとつ。最近ではシンプルでスタイリッシュなデザインが主流となっています。



いただきたいか、ということを意識して照明計画を立てています。たとえば、GM赤坂JOHSEKIではアプローチの車寄せの中央に設けた植栽が特徴的なので、そこをライトアップすることで、温かく迎え入れる気持ちと、ここがこのマンションのシンボルだということを表現しました。ただ、あくまで住宅なので、華美にならないよう上品な演出にしています(酒井)

「シンボルツリー、照明、石積み、道路側からの眺め、すべてのバランスが良く、車寄せの底も通常の2倍くらいあって、全体的にホテルライクな仕上がります(高戸)



機能性や安全性と景観としての美しさをいかに両立させるかが設計のポイントです。(城山)

よね。また、外観はどうしてこの色にしているのですか、ここに石積みや植栽があるのはなぜですか、といったように、ものごとの理由を聞かれるお客様が非常に増えました(高戸)

「土地の歴史など深い質問をされることもあります。直接目に見えるものだけでなく、その背景にある「ストーリー」を知りたいということだと思っています。たとえば、『大手門のあたりは江戸時代に家老のお屋敷が連なっていた場所なので、その趣きを感じさせるような格調高い門構えにしています』と説明すると納得され、喜んでいただけます(森)

「そういう意味では、GMはストーリーの宝庫と言えますよね。年月を経ることに風情のある佇まいになるよう野面積みという手法の石積みをしていたり、里山の風景にならった『5本の樹』計画の植栽で生態系に配慮していたり、語れることがたくさんあります(城山)

「その二つとつが、暮らす上でのメリットや住まうことへの誇りにつながっている、ということがとても大事なのだと思います(森)

*

「ゲートやアプローチはもちろん、マンション全体でこれからも引き続き街並みづくりや経年美化、環境共生といったGMならではの視点を大切に、お客様にとってより付加価値の高いご提案をしてきたいですね(酒井)